

1. 件名：検査制度見直しに関する日本原子力研究開発機構との試運用に関する面談

2. 日時：令和2年3月23日（月） 10：30～11：05

3. 場所：日本原子力研究開発機構の以下の2箇所をテレビ会議システムで接続し実施

東京事務所 20階 第4会議室

核燃料サイクル工学研究所 再処理廃止措置技術開発センター 事務棟 第4会議室

4. 出席者

原子力規制庁

原子力規制部

専門検査部門 村尾企画調査官、田中主任原子力専門検査官

実用炉監視部門 長澤原子力運転検査官

核燃料施設等監視部門 関主任監視指導官

東海・大洗原子力規制事務所 津田原子力運転検査官

日本原子力研究開発機構

核燃料サイクル工学研究所 再処理廃止措置技術開発センター

技術部 品質保証課長 他7名

5. 要旨

(1) 令和2年2月25日から2月28日にかけて、国立研究開発法人日本原子力研究開発機構（以下「JAEA」という。）核燃料サイクル工学研究所 再処理廃止措置技術開発センターで「品質マネジメントシステムの運用（PI&R）」（以下「PI&R」という。）に係る検査ガイドのチーム検査の試運用を行ったことから、原子力規制庁とJAEAとで、配布資料（1）の事業者意見も踏まえ、当該試運用に関する意見交換を以下のとおり行った。

なお、今回の試運用は、コロナウイルスの影響によって検査期間が短縮され、気付き事項の事実関係の確定ができなかったことから、原子力規制庁から、今期の原子力規制検査報告書（試運用版）には検査項目及びその結果を記載しないことを伝えた。

(2) 原子力規制庁から、配布資料（1）の意見に対して、以下のとおり説明した。

a) マネジメントレビュー及び内部監査に関するJAEA本部又は研究所の関係者からの説明については、まず原子力規制庁で当該試運用に係る規程類、活動実績を示す記録等を確認してから質問事項を提示できるので、これらを早めに実施することで事前に日程調整が可能となることを説明し、今後の円滑な情報共有を求めた。

b) なるべく早く事業者と情報共有する目的からPI&R検査室への出入りをフリーにしていること、ホワイトボードへの質問事項の記載がわからない場合はその都度検査官に聞いて欲しいこと、パソコンやプロジェクター等の活用も有効だが準備等に時間がかかるためホワイトボードの利用に協力して欲しいことを伝えた。

## 6. 配布資料

(1) 試運用フェーズ3 チーム検査実施後の振り返り (BQ0010「品質マネジメントシステムの運用 (PI&R) 検査ガイド」) (機構資料)